

実行委員長あいさつ



「勇気ある経営大賞」実行委員長
東京商工会議所 副会頭

伊東 孝紳

第15回を迎えた「勇気ある経営大賞」は、昨年同様多数のご応募をいただきました。最終選考に残った企業をはじめ、ご応募いただいた企業の多くは創意工夫に溢れ、チャレンジ精神が旺盛な素晴らしい内容でした。

今回はその中から、大賞1社、優秀賞2社、特別賞2社を選出いたしました。また今後本賞を受賞することが期待される企業として、奨励賞11社を選出しております。この場を借りまして募集や選考に当たりご尽力いただいた皆さまには厚く御礼を申し上げますとともに、本顕彰制度にチャレンジされた全ての企業に感謝を申し上げます。

大賞企業の丸高工業は、ビルの耐震補強工事・改修工事などを手がける建設業です。他の建設業者と同様に同社でも深刻な人手不足、とりわけ職人や熟練工や現場監督者の不足が問題となっていました。800近くの工程を見直し、多くの作業を標準化することで熟練工と同レベルの品質と安全を確保できる体制構築を通じて克服しました。また、従来のビル改修工事では騒音・粉塵により土日・夜間に工事が集中し、コスト上昇と工期の長期化が課題となっていました。同社では工具機械製作のノウハウがないにも関わらず、消音・消塵化する工具ならびに工法を開発することで、工期の大幅短縮を達成しました。

優秀賞2社には、何度でも再生可能なペットボトルのリサイクル技術を国内で初めて確立した協栄産業、新事業展開と海外進出への挑戦でリーマンショック後の経営危機から脱却した南武を選出しました。特別賞2社には、付加価値の高い医薬品パッケージ印刷への挑戦で価格競争から脱却した協進印刷、マッシュルームの市場拡大と農家への技術指導を通じた増産への挑戦で業績を拡大させたワキュウトレーディングを選出いたしました。

ここ3年、実行委員長として選考に参画し実感したことは、受賞した各企業の経営者の方々は常識を打破するという勇気ある挑戦を、逆境にも負けずに、我慢強く継続していく強い意志をお持ちだということです。企業規模の大小を問わず、「勇気ある経営」が社会環境や経営環境を乗り越え、事業を成長させていることに大変勇気づけられました。

私ども東京商工会議所は、このような「勇気ある経営」を体現した企業の活動を広くPRすることで、後に続く多くの企業に、夢と挑戦する勇気を与えることが出来ると考えています。今回惜しくも入賞を逃した企業においても、勇気ある経営活動を継続・進化させ、是非再度チャレンジしていただきたいと思います。

今後とも本顕彰制度へのご支援、ご協力を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。